

Case 33-2009: A 35-Year-Old Woman with Fever, Abdominal Pain, and Hypotension
after Cesarean Section (New England Journal of Medicine 2009;361:1689-97)

- #1 左下腹部痛
- #2 腹部硬直・反跳痛
- #3 腹部膨満感、排便排ガス停止
- #4 術後 2 日目からの発熱
- #5 ショック症状(低血圧、頻脈、無尿)
- #6 好中球増加→減少
- #7 凝固異常(Plt 低下、PT 延長、D-dimer 高値)→DIC
- #8 腎機能低下(無尿、Cre ↑)
- #9 低ナトリウム血症、低血糖
- #10 手術痕から左側腹部にかけての発赤
- #11 右下肢の苔鱗
- #12 妊娠糖尿病
- #13 尿所見の異常
- ※ 帝王切開後
- ※ ペニシリンアレルギー

帝王切開後、広域の抗菌薬と昇圧剤を使っているにもかかわらず発熱・低血圧・頻脈を認めた 35 歳女性。腹痛・反跳痛、傷の周りから左側腹部にかけての発赤・浮腫が認められている。これらのことから急性腹症が起こっていると考えられる。